

庚寅神無月老五日
無涯塾師範 廣瀬敏男

曲^{きょく}学^{がく}阿^あ世^{せい}

私は、「無涯塾」で居合を教えている。

全剣連の中央講習や地方講習、県・市剣連が行う講習、そして私の先生の教えや自分の経験から得たものを出来るだけ忠実に伝えているつもりである。

そして、自分独り善がりの居合になっていないか、強化練習のときなどに他の先生に確認をすることになっている。若し、自分が曲解したままの居合を教えることは、塾生に対し大変不遜であると考えているからである。謂わば教える立場の者の責任と思っている。

裏返して申すなら、居合のみならず一般の社会生活においても謙虚でなければならぬ。

真理に背いた学問で時勢に諂^{つと}うことを、「曲学阿世」という。

私は、この言葉を自分の処世の戒めとしているが、居合にも置き換えてみることもある。居合道も時代と共に変わってきているが、ここでいう「真理」というのは、誰もが正しいと認める不変なものであろう。

ここに、私の問題意識が頭を持ち上げてくる。

万一、「真理」の的が違っていたとしたらと思うと空恐ろしい。即ち、時勢に諂う破目になりはしないかと思う訳である。

自分の一番嫌いなのが、「諂い」と「裏切」、そして「卑怯」ということである。

そうであるから教える立場としては、上辺だけ聞きかじりの薄っぺらなことはできない。

居合の立場では、理^り会^{かい}の角度から、先人の教え、そして、気・業・身体・自他の関係、あらゆる角度から見て自分が納得したものでなければならぬものと思っている。

それでも、時間の経過と共に普遍であるところの「真理」を見逃すこともあるだろう。

いま検^あめて自分は、「真理」をしっかりと捉え、時勢に諂っていないかを考えるときだと考えている。 了

但^たダ 願^{ねが}ヒヲシテ違^{たが}ハヌコト無^なカラ使^しメンノミ 虎伯

(私の願^{ねが}いだけは、違^{たが}ってしまうことがないようにさせたいものである)